

## 第 1 回京都市中学校教科書選定委員会会議概要

### 1 日時

令和 6 年 5 月 2 0 日（月） 1 8 時 1 5 分から 2 0 時 0 0 分まで

### 2 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール 他

### 3 出席者

(1) 選定委員 1 0 6 名（4 名欠席）

(2) 教育委員会事務局 8 名

・教 育 長 稲田 新吾	・指 導 部 長 稲田 雅己
・指導部担当部長 福知 賢治	・指 導 部 顧 問 清水 稔之
・学校指導課長 野口 尚志	・学校指導課担当課長 土屋 和夫
・学校指導課統括首席指導主事 石井 大記	・学校指導課参与 坪井 聡

### 4 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後、各教科調査研究部会で協議が行われた。

(1) 稲田教育長から挨拶及び令和 7 年度から令和 1 0 年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する各教科教科書の選定についての諮問を行った。

(2) 石井統括首席指導主事から教科書選定の日程・教科書展示会の説明採択方法など概要説明、土屋課長より、公正確保についての説明を行った。

(3) 委員の互選により正副委員長が選出された。

(4) 調査研究部会全体会で、業務内容説明及び部会長、副部会長の選出が行われた後、各部会において、調査研究における「選定の視点」や調査研究方法、今後の部会開催日程について協議が行われた。

## 第2回京都市中学校教科書選定委員会会議概要

### 1 日時

令和6年6月27日（木）18時19分から19時54分まで

### 2 会場

京都市総合教育センター 1階 第1研修室

### 3 出席者

(1) 選定委員 103名（7名欠席）

(2) 教育委員会事務局

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| ・指導部長 稲田 雅己      | ・指導部担当部長 福知 賢治       |
| ・指導部顧問 清水 稔之     | ・学校指導課長 野口 尚志        |
| ・学校指導課担当課長 土屋 和夫 | ・学校指導課統括首席指導主事 石井 大記 |
| ・学校指導課参与 坪井 聡    | 他                    |

### 4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後、教科部会ごとに部会長、副部会長及び指導主事等から、現時点での調査研究の状況についての報告を行い、外部委員からの意見を踏まえ、協議した。（当日は選定委員会と並行し、各教科調査研究部会も開催された。）

### 5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 各教科内容について

- ・ICT技術が進化した現代において、生のコミュニケーションの重要性が高まっていると感じている。国語科について、各出版社とも、主体性や協調性を重んじたグループディスカッションの活動が提示されているが、現行の教科書と比較してどのような工夫がなされているか。

→ いずれの出版社の教科書も、話し合いのコツや振り返り活動などが掲載されており、コミュニケーションが重要視されている。例えば、光村図書では「録画を視聴して話し合いを振り返り」と記載されており、一人一台端末の導入を踏まえて設定されたもので、時代の変化に合わせて各社とも工夫されている。

- ・社会科について、漢字文化圏の地名の中で、漢字で記載されているものとそうでないものがあるが、その点について検討されているか。また、公民にはSDGsの目標が掲載されており、前回採択時よりも意識されていると感じるが、いずれの教科書においてもSDGs関連は取り扱われているか。

→ 漢字文化圏での表記の仕方については、まだ調査ができていないため、今後研究していく。また、学習指導要領において「持続可能な社会の創り手」が掲げられており、各出版社ともSDGs関連の記載があるが、マークや文言で示すなど工夫は様々である。

- ・理科においては、実体験を交えて学習するとより理解が深まると考えている。学習時間が限られている中で、生徒自らの実体験と学習内容をつなげるため、どのように工夫されているか。

→ 実体験については、生徒によって量や経験値が異なる。そのため、ICT機器や教科書に

掲載された様々なコラムを活用したり、部活動や学校生活の中の科学事例を参照したりすることで、実体験と学習内容を結び付けるよう取り組んでいる。

- ・ 数学科の選定の観点4において、「日常生活や社会の事象を数理的に捉えて」と定められており、今回提示いただいた教科書のページでは、学校図書が日常生活の事象を取り上げているが、他の出版社ではいかがか。
- 全国学力・学習状況調査でも日常生活に絡ませた設問が出ており、重要な視点であると考えている。他社においても、例えば気温の推移を追うことで桜の開花時期が予想できること等、様々な日常的な場面が取り扱われ、工夫して掲載されている。
- ・ 音楽を学ぶ楽しさを教科書や授業を通じてどのように生徒に伝えているか。何か工夫されているのか。
- 音楽は「万国共通の言語」と表現されるほど、音楽を通じて様々な国の人々と交流を図ることができる。しかし、生徒が日常的に聴いている音楽は、その範囲が流行りの音楽に限られるなど非常に狭い。そのため、色々な国の音楽や歴史的な音楽など、様々な音楽に出会うことが重要であると考えており、各教科書においても多種多様な音楽が掲載されるなど工夫されている。
- ・ 昔の保健体育の授業は、教員が一方向的に話をしていたようなイメージがあるが、教科書には話し合い活動の設定が多数掲載されている。今はどのような形で授業が行われているのか。
- 昔は一斉授業で教えていたが、今は話し合い活動を主としている。また、ICT機器を活用してグループ活動を行う授業も多くなっている。ただし、水泳や柔道など、大きな事故につながる恐れがある活動については、はっきりとした指導・指示が必要であり、その場合は教員が話をする形の授業となる。
- ・ 保健体育ではSDGsやその関連を意識させる記載はあるか。
- 保健分野では身体健康や環境についても学習するが、そこでSDGs関連も取り扱うことができるよう工夫されている。例えば、東京書籍では、見開きページにSDGs関連が掲載されており、それを参考にしながら学習を進めることができるようになっている。
- ・ 技術家庭科の学習内容は生徒がこれから生きるためにしっかりと身に付けなければならないと考えているがいかがか。
- 技術家庭科は生活に密着した教科であり、中でも技術分野は日進月歩、時代と共に常に進化している内容を取り扱っているが、授業では、20年、30年先を生きるための資質・能力を身に付ける必要がある。指導の根幹は、未知のものに対応できる資質・能力を身に付けることである。
- ・ 技術分野では、ものづくり等の制作実習が楽しかった印象であるが、教科書の内容を見ると少し難しく感じた。制作実習は現在も実施されているか。
- 制作実習は、現在も実施しているが、制作することが目的ではなく、その過程で何を学んだかが重要である。未知のものに対応できる資質・能力を、こうした制作実習を踏まえて育んでいく。
- ・ 英語を使ったコミュニケーションについては、まずは会話をしてみるという姿勢が大切だと思うが、生徒に英語を教える上で、文法等の知識面以外に大切にしている点は何か。
- 英語科においては、言語学習を通じて、社会貢献、国際貢献、平和などの視点で求められる人材の育成や、主体的に社会や世界に関わっていく態度の育成が求められており、人権やSDGs等の題材を通して英語を学べるような教科書となっている。
- ・ 現在の子どもたちは、いわゆる英語に対するアレルギーは見られるか。

- 小学校で英語が教科化されたことで、日本人同士で英語のやり取りをすることに対する、日本人特有の恥じらいがなくなり、コミュニケーション活動に積極的に取り組む姿勢が見られる。
- ・ 中学校の日本人教員によっては発音がネイティブと異なるため、日本人教員が録音した音源が聞き取りにくく、テストの点数が取れないこともあると子どもから聞くが、その点はいかがお考えか。
- 指導事項の中に、標準的な発音、イントネーション、ストレス、音のリンキング等も入っており、当然、教員は標準的な英語で指導すべきであると考えている。各英語科教員には研修等も含め、自己研鑽に努めていただけるよう取り組んでいる。一方で、世界では英語をノンネイティブとして使う人が圧倒的に多いのが実情であり、多様な英語でコミュニケーションを図ることや、自分の英語で目的を達成するという点にも重きを置いて指導に当たっている。
- デジタル教科書では音声を聞いて確認することができ、ALTの活用も含めて様々な手段でネイティブの発音に触れることができるようになっている。
- ・ 道徳の教科書について、社会的な新たな課題はどう取り上げられているか。
- 現代的な課題は様々に取り扱われており、その種類も増えているが、中でも注目されているのはLGBTQに関するものである。各社とも工夫されており、発達段階に応じて適切に課題を配置されている。

### 第3回京都市中学校教科書選定委員会会議概要

#### 1 日時

令和6年7月22日（月）18時13分から19時56分まで

#### 2 会場

京都市総合教育センター 1階 第1研修室

#### 3 出席者

(1) 選定委員 103名（7名欠席）

(2) 教育委員会事務局

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ・指導部長 稲田 雅己          | ・指導部担当部長 福知 賢治   |
| ・学校指導課長 野口 尚志        | ・学校指導課担当課長 土屋 和夫 |
| ・学校指導課統括首席指導主事 石井 大記 | ・学校指導課参与 坪井 聡    |

他

#### 4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後、教科部会ごとに部会長、副部会長及び指導主事等から、調査研究の結果及び答申案についての説明を行い、外部委員からの意見を踏まえ、協議した。（当日は選定委員会と並行し、各教科調査研究部会も開催された。）

(3) 答申案については、正副委員長の預かりとすることで了承された。

#### 5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 各教科内容について

- ・国語科と社会科について、現在使用している教科書の中で、現場の教員から「ここは使いにくい」といった意見は聞いているか。もし使いにくい部分があるとしたら、新しい教科書で改善されているか。

→ 社会科の公民的分野は、現在、日本文教出版の教科書を使用しており、現行の教科書については「単元の導入場面で生徒に学習内容が伝わりにくい構成である」との意見が学校現場からあったが、今回の新しい教科書では、単元の導入でイラストを使って日常生活の場面を想定しながら学習内容につなげる工夫や、対話場面を示した課題が設定されているなど改善され、さらに使いやすくなっている。

国語科においては、現行の教科書について使いづらさ等は聞いていないが、各社とも軽量化を図るなど学校生活で使用する上での工夫が見られる。また、光村図書の教科書では、単元の見通しが縦の流れで表示されるように今回からなっており、縦スクロールで画面を見る現在の生徒たちの生活様式になじむよう工夫されている。併せて、書写においても、デジタル付箋を取り上げるなど、硬筆に捉われない活用を促しており、使いやすくなっていると感じている。

- ・社会科の地理的分野・歴史的分野・公民的分野は系統的に学習が進められる構成となっていると思うが、公民的分野のみ日本文教出版の教科書が使用されている。学習の系統性など

- を踏まえても、日本文教出版の評価が高いのか。
- 御指摘の点について選定委員会でも重視しており、各分野の委員が集まって検討したところである。特に3年生公民的分野の最後にある「より良い社会の実現に向けて」という單元において、日本文教出版の教科書は單元構想がしっかり組まれている一方で、地理的分野・歴史的分野では、帝国書院の教科書において見方・考え方が公民的分野につながるよう工夫されており、地理的分野・歴史的分野で身に付けた力を3年生の公民的分野で生かすことができる点を評価している。
  - ・ 数学科については現在啓林館の教科書が使用されているが、現在の教科書と新しい教科書で一番変わったポイントはどこか。
  - 啓林館においては、例として数学的な考え方の流れを示している点で優れているが、さらに発展的に、「ほかにどんなことが考えられるか」といった生徒自らが協働的な学びを進めながら考えていけるような構成となっている。
  - ・ 保健体育科の教科書を見ていると、図や表に「資料1」「資料2」といった表現で示されており、他の教科が「図」などとなっているところ、書き方が異なっている印象である。保健体育科はどの出版社も同じ書き方か。
  - 今回提示した3社以外の教科書も、「資料」という表現で使用されている。
  - ・ 技術分野については、時代によって教える内容が変わってきている教科だと思うが、教科書によって生徒に教える内容や注力する内容は異なるのか。
  - 技術分野で生徒に身に付けさせたい資質・能力については学習指導要領に定められており、どの教科書であっても同じものを目指している。しかし、どの題材を使うかは出版社によっては異なる。
  - ・ 音楽科で学ぶ「花」であるが、教育出版は見開きで楽譜を掲載しており、一方、教育芸術社は下部に資料がある分、次のページに楽譜が続いているように思えるが、ページの構成はいかがか。
  - 「花」は3番まで歌詞があり、教育出版は2番の途中でページが変わる構成となっている。一方、教育芸術社では、2番と3番が次のページに掲載されている。生徒の使い勝手や教員の指導のしやすさを考慮すると、歌っている途中でページが変わらない方が見やすく、使いやすいと考えている。
  - ・ 技術分野については、他の教科書に比べると図表が多い印象である。また、教育図書の教科書は割と文章量が多い印象を受けるが、どうお考えか。
  - 技術分野の特性として、文章だけでは伝えきれない点があるため、図版をできるだけ掲載した方が生徒の理解を促せると考えている。教育図書については、別冊で図版を多く掲載しており、それを考慮すると他の出版社とそれほど変わりはない。
  - ・ 道徳において、「役割演技を促すこと」の重要度は、これまでと比較して高くなってきているのか。
  - 現行の学習指導要領において多様な学び方を図ることが示されており、それに従って各教科書にも多様な場面設定や方法等が掲載されるようになってきた。学び方に必ずしも役割演技に限られるわけではないが、例えば、色々な立場に立って考えることで人間の弱さなどを体験的に学ぶなど、役割演技は考えを深めるためには有効な活動であり、その重要度はますます高まっている。
  - ・ 英語の教科書を見ていると、昔よりも難しくなった印象を受ける。中学校では指導内容の

難易度も上がるが、指導面で何か工夫されているか。

→ 確かに指導内容の難易度は上がるが、小学校で英語が教科化されたことで、生徒同士で第2言語を活用してやり取りすることや、人前で発表することへの恥じらいがなくなり、コミュニケーション活動についてはスムーズに進められるようになってきている。

・ 3年生の英語の教科書を見ていると、社会問題に関してよく取り扱われているが、社会の仕組みが分からないと、英語の学習内容も分からないことが懸念される。この点、東京書籍は、内容理解の手立てとなるコラムや図表をしっかりと掲載されており、よく工夫されていると思う。

・ 現在、小学校で使用している英語の教科書はどの出版社のものか。また、それを加味して今回評価されているか。

→ 小学校の英語は東京書籍を採用しているが、それを加味して評価しているわけではない。